

古里支える技術者に

秋田職能
短大

3科に55人が入校

式では学生一人一人の名前が点呼され、入校が許可された。後藤校長は「専門的な知識や技術だけでなく、どのように工程を進めるかの思考や判断、現場の息遣いといった『ものづくりの共通言語』を学べる場所」と同校を紹介し、「さまざまな分野に挑戦し、国や古里を支える実践技術者になってほしい」と式辞を述べた。

続いて入校生を代表し、虻川詞保さん（住居環境科）が宣誓。「豊かな創造性を身に付けられるように授業と実践を通して専門知識を学ぶとともに、地域との関わりを大切にしていきたい」と決意を語った。

大館市の秋田職業能力開発短期大学校（後藤康孝校長）で5日、2023年度入校式が行われ、3科55人が地域を支える技術者としての志を胸に、新たな生活のスタートを切った。

本年度の入校生は生産技術科14人、電子情報技術科19人、住居環境科22人の計55人。うち県内出身者は53人だった。



入校生を代表して先生する虻川さん㊟（秋田職能短大）